

# 「化石少女」例会レジュメ

2015年5月9日(土)

## 1、作者・麻耶雄嵩について

**\*略歴**：1969年、三重県生まれ。京都大学工学部卒業。大学では推理小説研究会に所属。在学中の91年、『翼ある闇 メルカトル鮎最後の事件』で衝撃のデビュー。2011年『隻眼の少女』で日本推理作家協会賞（長編及び連作短編部門）と本格ミステリ大賞をダブル受賞。年間ミステリ・ベスト10常連の異才である。（『化石少女』作者紹介より）

**\*作品**：「メルカトル鮎シリーズ」…「不可謬的存在の探偵」。「探偵が正しいことを言う」のではなく、「探偵の言っていることが正しい」。

「木更津悠也シリーズ」

「神様シリーズ」…「探偵役は何でも知っている」＝「探偵役の言っている事は真実」。冒頭で犯人が明かされる。

「貴族探偵シリーズ」…「自分で推理しない探偵」。

「推理小説の暗黙の了解」に突っ込んでいくスタイル（個人的な見方）

## 2、「化石少女」について

〈ミステリ界の頭脳が生みだした、とんでもビリ探偵！〉

〈一番身近なワトソン役にもバカにされ、推理を認めてもらえない女子高生を名探偵に据えてみました。学園内で次々と起こる怪事件を、二人はどう解決するのか、はたまたしないのか？ 私も気になります。——麻耶雄嵩（帯より）

**\*6つの章からなる連作短編集**

舞台：私立ペルム学園…「京都市の北部に位置し、近くを賀茂川が流れる」

実際の京都市の高校と見比べてみた。

1、京都府立洛北高等学校（地図的にはいちばん近い）

2、京都市立紫野高等学校（洛北と同じくらい。ちょっと南）

私立限定

1、同志社女子中学校・高等学校（ちょっと南すぎるかな）

2、同志社中学校・高等学校（すごく無理がある。でも、同女より北。すごく北）

百年の歴史を誇る。（同志社高校が一番近い）

（その中で古生物部は約20年の歴史を持つ）

「まったく。よりによってうちの備品を殺人の小道具に使うなんて。これは紛れもなく、生徒会の古生物部潰しよ！」（第一章 古生物部、推理する p43）

「生徒会の謀略！」（第二章 真実の壁 p99）

→全章にわたって、「犯人は生徒会メンバー」という推理。

**\*ミステリ（特に犯人当て）は、あらかじめ容疑者が決まっている。**

明確な「真相」は明らかにされないスタイル。

### 3、主な登場人物紹介

#### 神舞まりあ (かんぶ・まりあ)

私立ペルム学園2年生。古生物部。

——目はつり上がり、八重歯は剥き出しになる。さながらサーベルタイガーのよう。丸顔で目鼻立ちが整い、健康的にほど良く日焼けし、おとなしくしていればそれなりに可愛いはずなのだが、今は台無しだ(第一章 古生物部、推理する p6)

### 八重歯美少女！！！！

(余談：この記述を見た瞬間、わたしの中でまりあちゃんは和田彩花ちゃんて再生されるようになった。八重歯美少女は正義)

化石大好き八重歯美少女。

「騙したわね！ どこにイクチオステガ似のイケメンがいるのよ」

〈参考〉イクチオステガ

比喩が可愛い (化石)

「どうしたの？ ランフォリクソスが魚を取り損ねた様な顔をして」

「あの中年刑事、ゲムエンディナみたいないけない顔で偉そうに説教するのよ」

重度の化石オタクにしてお嬢様

#### 桑島彰 (くわじま・あきら)

私立ペルム学園1年生。まりあの幼馴染。

普通のサラリーマン一家。父の勤めている会社の社長がまりあの父。

——もっともまりあはそんな意識は微塵もないようで、ただの年下の幼なじみとして無遠慮に接している。だが、彰の方は父親から云い含められ、まりあのお守り役というか従者のようになっていた。幼稚園の頃からそうだった。どうやら父親も、社長にそれとなく頼まれたようだ。

元バスケット部。

#### 荒子武伸 (あらこ・たけのぶ)

私立ペルム学園3年生。生徒会長。剣道部部長。

#### 野跡倭文代 (のせき・しずよ)

私立ペルム学園3年生。生徒会副会長。テニス部エース。

#### 稲永渚 (いなえい・なぎさ)

私立ペルム学園2年生。会計。演劇部。

#### 中島智和 (なかじま・ともかず)

私立ペルム学園3年生。書記。

#### 小本英樹 (こもと・ひでき)

私立ペルム学園2年生。庶務。陸上部。

#### 笹島生人 (ささしま・いくと)

私立ペルム学園2年生。風紀担当。柔道部。

### 3、各章について

#### 第一章 古生物部、推理する

〈被害者〉 福井京介：3年生。新聞部部長。

「まあ、安心しな。いろいろとネタは仕入れてあるから。来週にも学内が大騒ぎになるような面白いことが起きると思うぜ」

「まあ、結果をご覧ください。きっと水島さんを会長に復活させてみせるから」

三年生の選挙はもうない。秋に行われるのは現二年生の選挙である。ということは復活するには任期中の総辞職が必要になる。福井はそれくらいのネタを握っているということなのだろうか？

〈事件概要〉

- ・新聞部部室にて、金属バットで頭部を三ヶ所殴打されて殺害される。
- ・シーラカンスの被り物を被って逃げる犯人に遭遇。
- ・バッドは軟式野球部のもので、指紋は検出されず。
- ・死体の第一発見者は不明。
- ・交番へ通報が入る。通報者は不明。
- ・死亡推定時刻：午後4時～4時25分頃。
- ・新聞部の2か所の入り口は、それぞれ本棟の廊下とクラブ棟の廊下に面している。
- ・本棟側：2年生十数人がたむろ。3時40分以降に新聞部室に入った人間は福井以外には、2年生の一人だけ（4時過ぎ）。その一人も、福井に怒られ5分後には出て行った。それ以来、警官が来るまでに部室に入った者はなし。
- ・クラブ棟側：入った者はおらず、〈シーラカンス男〉が出て行ったのみ。

〈まりあの推理〉

- ・犯人は中島。
- ・警官の服装で新聞部に入る→殺害→シーラカンス男に変装して逃亡
- ・予め通報して、警官が来たのを確かめてから殺害。

#### 第二章 真実の壁

〈被害者〉 弥生信子 2年生。

〈事件概要〉 クラブ棟廊下西側の窓の外にそびえる体育館の壁『真実の壁』がポイント。

——別に口を開けた神様が描かれているわけではない。ただの無地の白壁である。だが、その壁は日が暮れはじめると雄弁に真実を語り始めるのだ。距離が近いので、部室から漏れる灯りが白壁に投影されるのだが、そのとき窓際に立つ人影もまた、はっきりと壁に浮かび上がらせるからだった。

しかも部室の天井の照明と窓の位置関係から、影は常に一つ下の階の部室の正面に浮かび上がるため、階下の部には真上の部の秘密が筒抜けになる。

- ・六月半ばのある日、雷のせいで停電になってしまう。
- ・古生物部室（クラブ棟2階）に集っていた生徒会メンバー（副会長除く）とまりあ・彰。
- ・その部室の窓から、壁に映し出された影をその場にいた全員が目撃する。  
→男子生徒が女子生徒を殺害している現場に見えた。
- ・女性との死体が発見される。→首を絞められて殺されていた。
- ・常盤真人が逮捕される。→「煙草を吸っているのを見つかるのを恐れた」というのが、挙動不審になってしまった理由（本人の言い分）

〈まりあの推理〉

影について

- ・影は合成。

男の影→3階の常盤。

女の影→1階空き部屋のもの。

- ・女の死体はビニール紐でカーテンレールからつりさげられていた。
- ・男の影と女の影が偶然重なってできたもの。

殺人について

- ・犯人は小本。
- ・マスターキーを取りに行く途中に、死体を窓の外に放り出す。  
(余談：雷でパニックになるまりあちゃん可愛くないですか可愛いですね)

### 第三章 移行殺人

〈被害者〉八瀬鞍馬：1年生。叡電部。

〈事件概要〉

- ・後頭部を殴打される。(脳挫傷)
- ・文化祭で展示する予定だった七〇〇系が叩き潰されていた。
- ・八瀬の服装：夏の制服に叡電の白手袋。
- ・凶器は鉄道のレール。窓の外に捨てられていた。
- ・パワースポット部（叡電部の隣）：嵐電部の制服を着た人物が前を通る。
- ・3階北階段近くの通路：エアホッケー部：金槌を持った嵐電部の制服を着た男を目撃。  
→この金槌で七〇〇系を壊したものと思われる。

〈まりあの推理〉

- ・嵐電部の男は八瀬。  
→叡電部の模型が嵐電部に破壊されたように見せかけるための偽装。
- ・窓から頭を突き出した八瀬にレールを投げ落とす。  
→嵐電部の制服を籠に入れ、回収してもらうため、頭を窓の外に出していた。
- ・犯人は笹島。  
(余談：赤点ツンデレを否定し、黒点ツンデレとか言い出すまりあちゃんあほ可愛いね?)

### 第四章 自動車墓場

舞台が学校から学校の宿泊施設へ。

〈被害者〉富井譲治 R大学リンチ事件の主犯格。逃亡犯。

〈事件概要〉

- ・乗用車の運転席に座ったままの状態です脇腹をナイフで刺され殺害される。
- ・助手席が前にスライドされていた。

〈まりあの推理〉

- ・犯人は稲永。  
→助手席の狭い空間で、富井を刺し殺せた人物。
- ・宿の駐車場で殺害→サイドブレーキが外れ、斜面を下っていく。
- ・下り終わった車は、不法投棄されていた車に追突。

### 第五章 幽霊クラブ

〈被害者〉浦田信彦：3年生。前風紀担当。

〈事件概要〉

- ・旧クラブ棟の抜き打ち調査中に発生。
- ・旧クラブ棟では過去に一人、生徒が飛び降り自殺している。
- ・浦田が屋上から転落。

- ・4階：一列になって進んでいた。(野跡・浦田・稲永・笹島の順)  
→奥まで行って回れ右をして戻る。
  - ・途中、野跡が階段を見つけ、野跡を先頭にして上る。
  - ・踊り場につくやいなや、浦田は突然駆け出した。  
→そのまま屋上へ行き、飛び降りた？
- 〈まりあの推理〉
- ・犯人は野跡。
  - ・稲永の目の前で駆け出したのは浦田ではなく野跡。  
→ブレザーを上からきて変装。
  - ・4階で引き返す際、「野跡・浦田・稲永・笹島」の順番が逆になる。  
→最後尾になった野跡は、後ろから浦田に麻酔を嗅がせる。  
意識を失ったところを、大局将棋部の部室に放り込んでおく。
  - ・浦田役を演じ、稲永の前で突然駆け出して見せる。  
→その浦田に突き飛ばされたようにふるまう。
  - ・屋上から飛び降りた浦田（実際には染み）を確認後、ひとり大局将棋部の部室へ戻り、被害者を転落死させる。

## 第6章 赤と黒

〈被害者〉馬場広道：2年生。

〈事件概要〉

- ・古生物部に新入部員。(馬場)
  - ・実は荒子会長の幼なじみ。
  - ・6時半に体育用具室へ来るよう、馬場に言われたまりあ。  
「奇妙な化石が埋まっているらしい」→コンクリートの壁に化石はないはず。
  - ・まりあ、彰、荒子、倉敷(用務員)で用具室を確認。
  - ・翌朝、死体が発見される。  
→体育用具室の中央で、マットの上に蹲って死んでいた。(体育座り)  
後頭部に2か所打撲傷。
  - ・体育用具室の鍵は用務員が施錠。  
→入るチャンスがない。
- 〈まりあの推理〉
- ・犯人は荒子。
  - ・馬場の死体はマットごと天井につりさげられていた。  
→こうすることで、死体を見られずに済む。
  - ・その後、マットをつるしたロープを換気孔から外に出す。
  - ・ロープを操り死体を下ろす。  
→その後、ロープを回収して密室の完成。
  - ・馬場より体重の重い荒子にしかできない。

\*推理の穴

マットをつりさげると蛍光灯の光を遮るため、光が届かなくなる。  
→このトリックは不可能。

——「(略)先輩の推理は俺が必ずここで聴いてあげますから」

「ほんと？」

まりあが顔を上げる。希望の光を見たように眼だけは輝いていた。

「ずっと？」

「ほんとにずっとです」

彰は再度念を押した。

〈真相〉

- 犯人は彰。
- マットの上に死体をおき、その上に跳び箱を被せる。  
マットと跳び箱それぞれにロープを通し、跳び箱のは上の換気孔、マットのは下の換気孔から外に出ていた。  
それぞれを操り、密室の完成。  
→これなら、馬場より体重が軽くでもできる。
- 馬場はこのトリックを使って、まりあを殺そうとしていた。

——このままだと遅かれ早かれまりあは真相に辿り着く。それだけは避けたい。かといって馬場のようにまりあの口を封ずるのは論外だ。

……となると残る手段は一つしかない。

これから先、常にまりあの推理を一人で聞き続け、なおかつ常に間違っていると指摘し続けることだ。